



アカ団だより

50周年記念演奏会特集号

No. 56

令和5年2月8日

発行: アカ団だより編集委員
中村、長谷川



長崎アカデミー男声合唱団 創立50周年記念演奏会を終えて

団長 森脇 俊晴

11月27日の創立50周年記念演奏会を、盛会裏にかつ無事に終えることができました。

これもまた、団員の皆様の日々の練習成果とご協力の賜物と感謝申し上げます。

平尾実行委員長を中心に長谷川さんの助言を活かし、50周年記念演奏会実行委員会の皆さんがいろんなアイデアを出して演奏会の企画を検討しました。

しかしながら、足掛け約3年の準備期間がありましたが、新型コロナ感染拡大の影響は大きく、この期間の半分以上は練習も含めて実質的な活動ができない状況でありました。このため、演奏会の趣向を凝らした演出も残された時間ではいろんな点から準備期間が不足すると判断し、アカ団の本来の歌声で勝負することとしました。

団員の皆様には、毎週の練習に加えて、終盤に強化練習を何回も行い、ご負担をお掛けしました。

さすがアカ団です。本番には集中力を遺憾なく発揮し、幸いな結果として、当日お越し下さったお客様からは、団員の皆さんの関係者からも、同様のお感想をいただいたかと思いますが、大変うれしい評価をいただきました。例えば次の通りです。

- ① 創立メンバーOBの方からは、その後のアカ団の様子を気にしていたが、機会を得て来場してステージ最初の「秋のピエロ」を聴き50年前を思い出して、涙した。感謝。
- ② 高齢の淑女からお手紙をいただき、青春時代に「こころの四季」を合唱したことを懐かしく思い出し、合唱の良さを再確認した。
- ③ 男声合唱を初めて聴いた女性から「野ばら」を聴き、女学校時代の頃を懐かしく思い出し、家に帰ってからもこの曲を自然と口ずさんでいる。
- ④ 「荒城の月」の合唱に、来場者の隣で母が涙した。純心大学の男子学生が男声合唱に感動した。
- ⑤ 心を洗われる貴重な時間であった。

等々のお客様の声を聞き、アカ団の歴史と同じように歳月を過ごしてこられた方々に、アカ団の記念演奏会の音の空間を透して、あらためて若き日を思い出すなどお客様に感動を与えることができたことは、アカ団の男声合唱が少しでもこころを伝えることができたということではないでしょうか。

また、アカ団の創立50周年記念演奏会の趣旨・目標を十分に達成できたのではないのでしょうか。

新年を迎え、アカ団は次のステージに向かって活動を進めていきます。地道な練習活動が中心となりますが、選曲委員会を通じて指揮者の先生方のご意見もお聞きして、新しい楽曲、演奏会等の参加も含めて決めていきます。そして普段通りのアカ団の男声合唱を伝えることができる機会を作ってまいります。

今後ともよろしく願いいたします。

最後となりましたが、平尾実行委員長をはじめ実行委員会の皆様には、演奏会当日はもとより、長い準備期間中にも、休みも返上して着実な仕事ぶりで準備活動に尽力していただきました。

誠にありがとうございました。団員を代表して御礼申し上げます。



創立50周年記念演奏会を終えて

副団長兼50周年記念演奏会実行委員長
平尾 眞一

皆様、昨年11月27日の創立50周年記念演奏会は大変お疲れ様でした。

令和2年5月に、身の程知らずに実行委員長を仰せつかり、この間、17回の実行委員会を開催しましたが、委員長とは名ばかりで、長谷川副委員長の豊富な経験と的確な助言を頼りに、委員各位の知恵と力をお借りし、団員や指揮者・ピアニストの皆さんの熱意に支えられ、何とか演奏会当日に漕ぎつけた次第です。改めて皆様
に感謝申し上げます。

お陰様で、本番はコロナ禍にも拘わらず、ブリックホールに多数のお客様に会場いただき、ステージの評判も良かったようです。友人からも「良く声が出ていて、久しぶりの本格的な公演で素晴らしかった。」「男声の魅力、最高。引き込まれました。」「次は2、3年後と言わず、ぜひ来年(令和5年?)の世界遺産登録50周年の式典で歌って欲しい。」などの有難い感想を頂きました。

ご承知のとおり、アカ団は団員が減少し、新規団員の勧誘や休団者の復帰が急務です。合唱祭、市民音楽祭等の定例ステージに加え、他団体とのジョイントや地域イベントへの参加など、様々な場面でアカ団の魅力や地域貢献をPRし体制強化を図りながら、次の50年への一步を踏み出せればと思います。

長崎アカデミー男声合唱団 創立50周年記念演奏会に寄せて

ヴォイストレーナー 尼崎 裕子



敬愛なるアカ団の皆様、創立50周年記念演奏会のご成功本当におめでとうございます。そしてこの栄えあるステージに長崎が舞台のオペラ「蝶々夫人」～ある晴れた日に～にてご一緒させていただけたことは誠に光栄で誇り高き舞台となりました。心より感謝申し上げます。

本番は4ステージを見事に最後までアカ団の調べにのせて優しく柔らかなハーモニーで、また迫力ある魂の叫びをブリックホールいっぱい響かせていらっしゃいましたね。お客様からも心が癒された・勇気をもらいました・感動しました・第3ステージは名曲の演出が楽しかった・等々感想を頂きました。

これも素晴らしい指揮者のご指導とピアニストさんの温かい練習と皆さんが強化練習を重ねて若々しく生き生きと舞台に立たれたからこそのご成功と敬服致します。50年と言えば半世紀!!! 本当に凄いです。私は素敵な皆さんと20年以上もご一緒させていただきました。今は亡き団員様からも「裕子先生が来ると明るくなって声が出て嬉しいです。先生の声はありがたいです」と帰り際にそっと声をかけてくださったことが嬉しくて今も大きな励みとなっております。この出会いに感謝しかありません。

そんな優しく温かく包容力があり紳士なアカ団の皆様が大好きです。ヴォイトレの際は更に皆様の声を輝かせるように尽力いたしますのでこれからもどうぞよろしく願い致します。

最後にアカ団の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



創立50周年記念演奏会、大成功に感謝！

副団長 益田 清

コロナ禍の中、1年遅れの開催となりましたが、マスクなしで歌えることに、まず、感謝し、それとたくさんのお客様を入れてブリックホールで歌えた事に感謝したいと思います。

実行委員会の皆さんも、コンサートを成功させるため、45周年の時の倍以上に会合をかさねご尽力頂いたことに、改めて感謝申し上げます。

今回のステージは、4ステ合わせて、28曲と言う曲の多さも大変でしたが、コロナ禍の練習場確保の難しさに、休団者が多い中、練習に集中された団員の皆さんエールを送りたいと思います。当日コンサートに来られた方々からも、素晴らしい演奏会でしたとお褒めの言葉おたくさん頂き、私の友人、同級生、元会社の同僚からも、メール、年賀状に「さすがアカ団」「素晴らしい」「また、来ます」などと嬉しい言葉ばかりでした。

私は今回がブリックホールでの記念演奏会が最後のステージになるかもしれないの思いもあり、楽しく歌おうと決め望みました。何せ参加団員が36名と前回の約半分まで減少し、おまけに高齢化も進み、平均年齢も73歳を超える状況で、次回、55周年を考えると厳しいのではないだろうかと思ったからです。

これからは50周年を一区切りして、新たに毎年とは行かなくても、適時、ミニコンサートや季節に合わせたコンサートを企画して皆さんが健康で長生き出来る合唱団を目指して行ければと幸いと考えます。



これからのアカ団がうたう曲は？

トップ 下野 康文

創立50周年記念演奏会、皆様本当にお疲れ様でした。

コロナ禍で1回は挫折したにもかかわらず、それにもめげず開催できた今回のコンサートは、指揮者・ピアニストの先生方そして、団員それぞれの心に残る演奏会ではなかったかと思えます。

一つの節目を乗り越え、これからいよいよ次の半世紀へ向けて、歌い続けていきたいと思っています。

1月から新しい曲も準備され、一番近いところでは、6月の合唱祭へ向けて練習に取り組んでいるところですが、これからのアカ団はどういう方向に向かっていくのかを少し考えてみました。

新しく入団された方も結構いらっしゃいます。これまでの練習では演奏会で歌う曲がほとんどだったと思います。男声合唱は初めてという方、昔、学生時代にグリーで歌って以来という方、と様々な団員がいらっしゃいます。

そこで私は演奏会が終わったこの機会に、いわゆる“男声合唱の定番”といわれる曲を取り上げ、新しく入られた方たちにも男声合唱の面白さ、素晴らしさ、醍醐味を味わっていただければと考えています。具体的には、愛唱歌集を中心に、「グリークラブアルバム」などに掲載されている、古今東西の男声合唱の名曲を取り上げるというのはどうでしょうか。また、ここ最近あまり歌っていない、「多田武彦」を中心とした一連の男声合唱も、親しみやすい曲も多いし、新人の方にも是非知っていただきたいなあと思っています。

短い作品でも、キラリと光る名曲はたくさんあると思います。このような曲をどんどん増やしていけば、例えば施設訪問演奏などの時も楽しいプログラムを組めるのではないかなと、そんなことも考えるこの頃です。



「50周年記念演奏会」を終わって

トップ 小方 日出雄

「50周年記念演奏会」がコロナ禍の中にあって盛会のうちに無事終了出来て最高の喜びです。

ただコロナ禍で退団や休団されて一緒にステージに立てなかった仲間がおられて寂しく残念な面もありましたが、団としては大きな節目をクリア、更なる飛躍発展の礎となったのではないのでしょうか。私事ですが、この度の50周年は私の結婚50年に重なり、また入団20年(定年の年に入団)になり感慨深いものがありました。

(次ページに続きます。)

私は基礎疾患があるのでコロナ感染が酷い時は練習も滞りがちで、また夏には持病が悪化して休団しました。幸い3か月程で改善、復帰できましたが練習不足の心配がありました。そんな時CDやHPの団員専用掲示板の音源の活用は大いに助かりました。

出演については医者に相談し安全圏の3ステージまでとしました。(私的には全ステージOKでしたが)4ステージと打ち上げ不参加は今もって誠に残念。止む無し。

嬉しいことに、60代の頃は近郊の山を歩いた山仲間でもある高校の同窓生(女子)5人が聴きに来てくれた。お祝いの熨斗袋に「13回生ファン一同」とあり、終演後会う機会を逸したのでお礼の電話をした時に異口同音に「もう少し頑張って、楽しみにしているから」と励ましの言葉を頂いた。ありがたい事である。

最後になりましたが、指揮やピアノ伴奏の先生方、そして2年間記念演奏会の準備、企画からアフターまで尽力頂いた実行委員会の皆様に心より感謝致します。



50周年記念演奏会は大盛況

トップ

中村 信孝

1. 観客の感想

理想に燃える「団歌」に始まる演出に清められ、第1ステージ「月光とピエロ」で燃え上がりました。シニアコーラスでは歌いたくても芸術にはならないほど、あのハーモニーは作れなくなるもの。トップのh-b音を輝かしく出せるシニアコーラスは殆んどありません。

ファルセットで辛うじてハーモニーを維持するのが精一杯です。それがどうでしょう！

会場にあの高音が響き渡ったではありませんか。「ブラボー！」です。30余名のメンバーが心ひとつに作り上げた今回のステージは第1ステージでもう満開でした。力強く、若々しい声、重厚なハーモニー、本当に見事でした。

最後に「心の四季」を演奏するこの演出は涙が出るほどの小憎らしさでした。誰もが愛するこの曲は詩を聞いているだけで、そして高田三郎のハーモニーを奏でるだけで身が打ち震えます。客席は余韻に酔いしれたのは当然だと思います。ボイストレーナーの「バタフライ」ソロもあって爽やかな清涼剤！！

なんて粋な計らいでしょう。

「アカ団」が観衆の心をしっかりとつかみ「アンコール」「ブラボー」の連呼を得たのはメンバーをはじめ指揮者、関係者の情熱が伝わったからだと思います。素晴らしい演奏会でした。

2. 私の趣味活動を歌舞伎セリフで語る

いよっ！中村屋(三味線のしゃぎりに乗って賑々しく登場の主人公)

東西東西～！(拍子木の音パチパチパチ(♪))

最初は嫁に煽てられ、しゅしゅ始めた合唱も、数えてみれば21年(ソレっ！！)

思えば遠くえ来たもんだ(いいぞ、いいぞーい！)

数々開いた演奏会、喝采浴びてアンコール。受けた感激！忘れぬ(成駒屋～)

コロナ騒ぎで団員だんだん減って来て、気付けばハゲ・デブ・ノッポ居り、(よいしょ)

それが何れも高齢者。言わずと知れた長崎のアカデミー合唱団だ～(アカ団！)

あっしの仲間だ～ アンコール、もってこーい！の連呼拍手鳴りやまず・・・

今日は天下晴れての50周年演奏会。気持ちを併せて声高らかに「ヤッホー♪」

してまた次に控えしは、長崎の韋駄天と評判名高いアスリート(ワッショイ)

全国巡った大会で出した記録は数知れず、日本一に輝くこと幾たびか(いいぞー)

今もたゆまず練習し、記録を狙う長崎の怪物た～ あっしのことだー(ヤッター)

中村！“日本一”の掛け声、喧騒の中に幕。



50周年記念演奏会

トップ 朝長 初巳

先ず、あるお客様のお手紙を抜粋して披露いたします。「バラエティに富んだプログラムで練習もさぞ時間をかけられたことでしょう。指揮者、伴奏者、ヴォイストレーナーも素晴らしい方々でアカ団の歴史の重厚さを感じました。心の四季の中で『雪の日に』は学生時代に歌ったこともあり懐かしく聴きました。吉野 弘さんの詩はどれも素敵で他の歌も聞き惚れました。」

また、終演後の1階ホールや電話で多くのお客様から感動した！楽しかった！と喜びの声を聞きました。私は、本番では体も声も少し疲れ、歌い終えるのが精一杯でしたので満足に歌えなかったと悔いていましたが、お客様のお褒めと励ましの言葉ですっかり気持ちが立ち直りました。練習、本番ともきつかったけど、今度の舞台でアカ団の皆様と一緒に歌えて良かったと痛切に感じ、今後も体力が続くかぎり一途に歌い続け、アカ団の伝統、益々の発展に微力ながらも加わって行きたいと思っております。

最後にアカ団50周年記念演奏会実行委員会の皆様様の長きにわたる献身的なご尽力に脱帽しこころより感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。完。



50周年演奏会に出演して

トップ 森崎 国泰

アカ団にとって本当に久しぶりの演奏会でした。

私自身も久しぶりのステージで当日を本当に緊張して迎えました。

しかも当日はコロナ感染者が日に日に増える中、あんなに多くのお客様に来ていただくとは！！
今までのアカ団の先輩方が歌い続けた日々がこんなにも多くのファンを集めていたんですね！！
身の引き締まる思いでした。

にもかかわらず私はあまりの緊張に歌詩を間違えてしまって！！

先輩方大変申し訳ございませんでした。

演奏もさることながら先輩方の事前の準備、当日のマネジメント！！

さすがは人間力のアカ団だ！！とあらためて驚きました。

「50周年の次は.....」とステージ上でもお客さんも交えた笑いが起こりましたが、今後ますます元気ハツラツのアカ団でいるために、次の次のそのまた次の次も皆さんと歌って行ければ嬉しいです。

これからも皆さん、宜しく願い申し上げます。



アカ団創立50周年記念演奏会感想文

セカンド 大久保 勝祐

私がアカ団に入団して翌年、創立25周年記念演奏会がチトセピアホールで開催され初めて出演致しました。その時はバリトンの鎌田さんの友人が所属して居る藤沢男声合唱団が長崎に観光旅行の計画があるとの事で賛助出演して貰う事に成り一緒に歌いました。それから25年経ちコロナで一年延期に成りましたが、昨年創立50周年記念演奏会を開催する事が出来ました。

私は記念演奏会には六回出演しましたが、大変やりがいがありました。私も米寿は過ぎましたが元気で暮らして居ります。これも合唱団に所属して居るお陰だと思います。感謝の賜物です。私はそろそろ引退の時期が来て居りますが、皆様はお若いですから、どうか末永く歌い続けて下さい。皆様には大変お世話に成りました。

厚く御礼申し上げます。



アカ団50周年記念演奏会で感じたこと

セカンド 梁瀬 純宏

当日運営運営担当として、実行委員会に参加したが、その中で感じた点を次回に向けての参考に述べてみたい。

準備スケジュール・作業は、45周年のDVDをもらいその中の資料を参考にしたが、どこに、何を、いつまでに発注するかなど、非常に参考になった。

当日までの準備での反省点としては、開催当日前日まであと2週間に迫ってからブリックスタッフとの打合せ・現認になったため、施設構造・備品配置の詳細がわからず、机・椅子等を何処からいくつどのルートで運ぶのか、イメージできず備品配置の流れや担当者の当てはめに本番日直前までバタバタさせられた。45周年と同様、1ヶ月前には施設担当者との打合せが必要と思う。

当日の演奏スケジュールについては、何といても4ステージは多すぎたと思う。当日の練習と本番を含め5時間に及ぶ演奏はさすがに咽喉・身体につらいものがあった。

また、練習に追われアルバイトスタッフへの指示が十分できなかつたこと、ステージ終了後の会場椅子消毒作業への団員の応援依頼が上手く伝わらず、8人くらいしか参加してもらえなかつたのは、私の反省点です。

今回の運営で特筆しておきたいのは、ベース長谷川さんの超人的な頑張りで、担当の枠を超えて何かと助けていただいた。感謝します。



サングラスのお誘い

バリトン 橋本 純生

記念演奏会の第3ステージは、お客さまとともに楽しむステージです。

前回の45周年では「アカ団チャンバラ劇場」が会場を沸かせました。今回の50周年は、コロナ禍の開催であり、また歌う曲目も多いので、お客さまと一緒に楽しむのは難しいのかなと思っていましたが、ジェットストリームの音楽に乗せた「世界を巡る 歌の旅」は、とても良い企画でした。

とりわけ印象深いのは「Sing Along」。練習の際に岩永先生がおっしゃった「皆さん、この曲は、自由にノリノリで歌いましょう」というフレーズに、私の思考は、「お客さまと一緒に楽しむには最適」→「ノリノリ」＝「自由」＝「アメリカ」→「(なぜか)ジーンズ&革ジャン」→「でも着替えは無理」→「せめてサングラス？」という流れになりました。

本番の前日、数人の方に「明日のSing Along、ステージで一緒に不良(サングラス＝不良という発想もおかしいのですが)になっていただけませんか？」と声をかけると、「いいですね。サングラス、運転用ならあります」、「釣り用ならあります」、「メガネにクリップで留めるタイプのサングラスでもいいですか」と、快諾いただきました。しかしリハーサルをする時間もなく、タイミングの打合せもできず、不良候補者の皆さんは、それぞれの心に想いを秘めてのぶっつけ本番です。

演奏会の映像を見てみると、尼崎先生の素晴らしい歌声のあと、司会の河野さんの「さあ、蝶々夫人に見送られて飛行機はヨーロッパを後にして大西洋を一つ飛び、アメリカへ向かいます」というアナウンスのなか、不良候補者の皆さんが暗がりでおおいにおまじないをやるのかよ？と訝しげに周りを見ながらゴソゴソしている様子が伺えます。歌い終わったあと、河野さんからの「この曲が一番アカ団の地が出たような気がします。サングラスの似合う方、そうでない方」のフレーズに会場からどっと笑いが起き、「お客さまと一緒に楽しめた」と、ほっとしました。

私自身もサングラスで恥ずかしさが消えたのか(普段はシャイです)、改めて見ると、非常にノリノリで、恥ずかしさが込みあげるSing Alongでした。

一緒に不良になっていただいた皆さん、本当にありがとうございました。



更なる高みを目指して

バリトン 新井 忠洋

3年前にアカ団入団後新型コロナが蔓延し、練習は何度も中断され、舞台上で演奏する機会もあまりなく、もどかしさを感じる中で、節目である創立50周年の演奏会に向けて、自分なりに自主練習や裏方の作業を頑張り、やりきったという気持ちからでしょうか、演奏会当日は大きな感動と達成感・充足感に浸り、舞台上で立てた喜びを噛み締めました。しかしながら、翌日から、なぜか演奏会ロスになり、気が抜けてしまっている自分がいます。

コロナ禍の影響で演奏会が開催出来るのかも分からない中での裏方の作業ではありましたが、先輩方に色々教えていただき、何とかこなすことができたのかなと思っています。皆様に心から感謝しています。

さて、演奏会終了後、当日の音源を聞いていて思うのですが、舞台上で感じた男声合唱ならではの重厚感や心地良かったハーモニーと違って、全体として何か物足りなく、まとまりにかけるところなどがどうしても気になってしまうのです。

もちろん私たちはプロの集団ではありません。入団した動機や目指す目標は様々だと思います。私自身も最初は歌って楽しめれば良いと思って参加していました。しかしながら、だんだんと欲が出て来たのだと思います。これからは他のパートの音もしっかりと感じ取りながら、個としても団としても、もっともっと上手になりたいと思っています。自分自身が楽しむことはもちろんですが、「アカ団」の合唱を聞いていただく方々に男声合唱の魅力とたくさんの感動を与えられるよう、更なる高みを目指して、今後の練習に励みたいと思っています。



50周年記念演奏会を終えての雑感

ベース 吉川 祐輔

まずは本番約2時間を乗り切る体力の限界！もはや、ステージ終盤は立っているのがやっとという感じで、声もガス欠寸前！？の状態であった。歌に集中するのが厳しくなるとは本末転倒なので、場合によっては全員イス座っての歌唱も本気で考えないといけないと思いました。

次に暗譜の問題。私が学生時代歌っていた頃、ステージでは当たり前暗譜で歌っていましたが、ただ、当時は暗譜に苦心した記憶がありません。若いから覚えが早かったという事もあるのですが、ただ単に練習量が多かったのではないかと、いつの間にか覚えていたという感じです。今回、パート毎の音源CDを作成して頂き、車の中で聞くなど大変重宝する中で、水曜日だけが練習ではないぞ！という事を痛感いたしました。

練習量の件で一つ。演奏会を聴きにきてくれた職場の後輩(合唱経験なし)に感想を求めたところ、歌い込んでいる曲と、そうでない曲の差があった、とのこと。私の家族も同じ趣旨の感想を持っていました。やはり今回は歌う曲数が多かったかなあと実行委員(企画係)の一人として責任を感じています。

最後に、来るアカ団100周年の事を考えてみました。私、生きていれば97歳！舞台上に上がる若干の可能性を密かに狙っております。団員平均年齢は80歳超？生活スタイルは様変わりしていると思いますが、聴衆の前に歌手が立ち、演奏を披露するというスタイルは変わらないでしょう。50周年の頃の写真を見ながら、この人はあーだったこーだったと誉め言葉を並べつつ、月光とピエロや柳河風俗詩という超古典作品を相変わらず歌っているかも知れません。



50周年記念コンサートで思うこと

ベース 堤 慶司

40周年記念コンサートを機にアカ団に入団し、今日に至った訳ですがそれまでも意欲はあったのですが仕事の都合もあり、やっと入団でき、楽しく過ごさせていただきました。

その間、京都・北九州・佐賀等シニアコーラス、上五島教会行脚、等々楽しい思い出を経験する一方、親友のセカンド佐々木君の不幸もあり、寂しい思いもしましたが、総じて音楽の楽しさ、人との繋がりを満喫したことでした。

仕事漬けの日々を終え、何もしなかったら・・・と思うにつけアカ団での刺激に満ちた日々のおかげでアクセントのある毎日で間もなく80台に突入しますが当面大丈夫みたいです。55周年が目下の目標ですが、長時間のステージが苦にならないよう足腰を鍛えなおし、頑張りたいと思います。今後とも皆さんの足手まといにならないよう心がけますのでよろしくお願いいたします。



50周年記念演奏会を終えて

ベース 長谷川 則昭

50周年の記録DVDを見て「よく50年歌って来たな」とつくづく思います。

昭和50年6月の第1回演奏会で「月光とピエロ」「雨」を歌ってから、今回の演奏会までの間に、多くの団員がアカ団に加入され、アカ団の男声合唱を歌い継いで来たことを、また残念ながら50周年演奏会に来られることが出来なかった団員の顔を思いながら、50周年記念演奏会を開催できたことは良かったと思っています。

男声合唱名曲集、懐かしのヒット曲集、世界を巡る歌の旅、心の四季、それぞれのステージで、50年間のアカ団の歴史、団員の男声合唱に寄せる熱情を、男声合唱の素晴らしさをブリックホールに来ていただいたお客様に聴いていただけたのでは、と思います。

また、これだけの曲を良く歌えたと今更ながら自分でも感心しています。もう一度同じ演奏会をすることは、とてもできない、今回のお客様・団員ともに幸せだったとつくづく思います。

これからは、自分たちの年齢にあった活動を、男声合唱への想いを追求しながら続けて行きたいと思っています。

<< 新入団員のごあいさつ >>



2021年4月入団 セカンド 本田 哲士

今年72歳になる卯年生まれの年男です。

70歳少し前に仕事をリタイア、その後、近くに住む先輩に誘われて地元の混声合唱団に入りました。それまで音楽には殆ど縁がなく楽譜の読み方も知りません。まして「絶対音感」などの超人的才能には縁もゆかりもありません。ただただ初めて経験する合唱を単純に楽しんでいました。

合唱祭に参加した時に「アカ団」の歌声に胸を打たれてから「アカ団」への憧れが徐々に大きくなります。しかし楽譜も満足に読めない自分にとって入団は身の程知らずの大冒険に思えます。随分迷いましたが、合唱祭の控室でたまたまお会いした平尾さんから声をかけていただいたことも思い出し、遂にその門を叩きます。

結果は、「アカ団」の響きとハーモニーに毎週浸ることができる幸運でした。生来の小心者がなげなしの勇気を振り絞ったお陰です。我ながら「good job」と褒めたい気分です。練習時間がとても貴重なものを感じられる今日この頃です。

練習では、自分の出す音やリズムが「ズレてる？」と思う時もあります。一緒に歌いたい気持ばかりが先走って委細構わず声を出している様です。頭のネジがどこか数箇所緩んだりしているせいとも思われます。外れた声で団員皆様にご迷惑をお掛けすることにならないよう「精進」したいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

<< 新入団員のごあいさつ >>



2022年4月入団 ベース 森永 健司

皆さんこんにちは♪ 昨年(2022年)4月に入団させていただきましたベースの森永 健司(大阪府出身61才)です。

ここ長崎は、平成4年に初就職した時に配属先として赴任した街で、平成21年までの17年間をここで過ごしました。その後、横浜の職場へと異動となったことから神奈川県茅ヶ崎市へと移り住み、昨年までの30年間の勤務を終えて、3月末に定年退職を迎えて自宅のある長崎へと戻って参りました。6年ほど前、横浜で合唱と出会い、夫婦ともども大いに楽しんでおりました。しかしここ3年はコロナ禍により練習も途切れ途切れとなってコンサートの中止が相次いで鬱々とした状態でした。

帰崎して早速、地元の合唱団をオンラインで検索したところ、検索結果の一番上に出てきたのがアカ団のホームページでした。大いに“出会い”を感じて早速、新入団者担当の堤さんに電話連絡をして練習を見学させていただきました。アカ団でもコロナ禍により練習を中断していたものの再開したところ、とのお話を伺い、運良く練習見学ができたことに、またまた“出会い”を感じました。

見学した翌週の練習時に入団のお願いをしたところ、朝長さんから大量の楽譜を手渡され、えっ！と驚いたことを覚えています。

さらにはコロナ禍で延期していた50周年記念演奏会の開催を企画しており、30曲近い楽曲を11月に演奏する予定とのことで、三たびの“出会い”ではあったのですが、その時には申し訳なくも半信半疑でお話を伺っていました。入団後は、大きな演奏会への出演に慣れておられる皆さんの懐の深い対応に乗せていただき、緊張しすぎることなく練習できましたことに感謝するとともに、創立50年の重みを強く感じております。

夏の盛りの頃までは、大きな演奏会への出演という現実感もほとんどなく、練習場となったことで初めて訪れた長崎市平和会館や桜町小学校地域・学校交流センターとその周辺など、長崎ならではの歴史感あふれる場所を観光客気分であらゆる楽しみながら毎回の練習に楽しく参加させていただくことができました。

さて演奏会の本番を終え、2時間ほぼ立ちっぱなしで28曲を歌った厳しい本番を含めて、初めての合唱の仲間と初めての曲に恵まれ、たいへん多くの“出会い”を経験することができました。演奏した全ての曲のなかでも特に“みずすまし”の歌詞にある“水の面で生きている・・・日常は分厚い！”のように、数々の“出会い”を経験して、皆さんとの“分厚い”時間を過ごすことが出来たことに心より感謝しております。このたび皆さんが永年に亘り積み重ねられた50周年を記念する演奏会にご一緒できたことは、新参者である私にとって大変名誉なことであり、かけがえのない大切な思い出です。またこれからもどうぞよろしくお願いいたします。



2022年11月入団 トップ 入江 幸春

昨年末に入団して、トップでお世話になっている入江です。私の昨年は定年退職後の2年間の学生生活を3月末に終え、4月より再職し、その後少し落ちついてきた所で、合唱とおしゃべりで楽しく活動できそうな混声合唱等に挑戦してみたいと考えていました。

そんな折、10月に開催された長崎市民音楽祭を観に行った所で、数ある合唱の中から自分の予想に反して男声合唱の魅力を感じてしまい、アカ団で歌いたいと思う様になりました。入団させて頂いた今、初めての合唱体験で楽譜も読めずに、周りの人に紛れて音を探りながらの声出し状態ですが、とても楽しい時間を過ごさせて頂いています。同時に、団員の皆さんが合唱を楽しみに、大事にされている姿、指揮者先生、ピアニストの方々の善意の姿を見る時に音楽に対する愛情・情熱を感じ一人感動しています。

これからも皆さんが作り出すハーモニーに包まれながら、大切にしながら楽しく歌って行きたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

<< 創立50周年記念演奏会 写真展示 >>



編集後記

アカ団だよりは、令和2年7月に発行以来2年半振りの発行です。
50周年原稿・新入団員挨拶の原稿をお寄せいただきました皆様、ありがとうございました。